

13. 個人手配の留意点

今回のグランド・ティートン遠征は個人手配&ガイドレスで行った。

以下は、今回我々は何故個人手配・ガイドレスにしたのか、或いは逆にガイド登山にした場合のメリット、また個人手配にした場合に留意すべき事項などについて、メンバーの意見を纏めたものである。
(いずれの方法を採用するかは、個々のパーティーの事情、技量、行先等により決定すべきであろう)

【1】何故「個人手配」なのか？ (ツアー登山やガイド登山ではなく)

(1) ツアー登山、ガイド登山の体力・予算上の問題点

一般的に、公募の現地ツアー登山や現地ガイド登山では、混成パーティー編成が普通であり、パーティー構成員の中心は元気な若者である。日本からのツアー登山は別にしても、特に現地ガイド会社が行っているガイド登山ではこの傾向が強く、我々高年者はパーティーとして要求される歩行速度などの行動基準について行けない場合が多い。歩行力が基準以下になればリタイアさせられる。

混成パーティーではなく、我々だけのプライベートパーティーを編成して貰うことも不可能ではないが経費が相当に割高になる。また、この場合でも歩行速度などが安全を確保できる基準を下回るようになればリタイア勧告となる。

また、登りたい山、登りたい日程でプライベートパーティーの編成を組んでくれるかどうかはガイド会社やガイドの都合によるので、定かではない。

次に、ガイド登山は高価である。年金生活者が多い我々には使える予算の制限もある。特にアメリカでのガイド登山は、登山の前に実地技術講習会に参加して技術レベルのクリアランスをパスしておかなければならないという慣習になっているので、このための余分な時間とコストも掛かる。

(2) アメリカ等への日本からのツアー登山は一般的ではない

ツアー登山を行っている日本のガイド会社でも、極めてポピュラーな地域への登山ツアーは募集しているが、グランド・ティートンなどへのツアー登山は募集していない。

また、登山ではなくトレッキングなどであっても、大手のツアーサービスでも「ちょっと立ち寄り」日帰り程度の観光しかやっていない。業者がテントサイトを確保することができないこと、公園外の宿泊施設が高いこと、国立公園認定の現地2社にしかガイドが認められていないこと等によるものと思われる。

(3) 現地ガイド会社が主催する一般公募のガイド登山は満員で予約できないケースが多い。

例えば、行先をグランド・ティートンに決定する前の段階で候補の一つとして調査したマウンテン・レニアの場合は、夏のトップシーズンの現地ガイド登山の予約は前年の9月頃から始まり、1月の時点で既に満員となっていた。

以上のような理由から、今回は「個人手配&ガイドレス」で行ったが、GT7の7人の協同による手作りの計画・実行・報告は、GT7の成果ではないかと思われる。

私たちにとって歩きたい山は際限なく存在する。これを能力（体力、技術、時間、金・・・）と相談して、許された期間に、どのように歩くかを（単独か・チームか、ガイド無しか・ガイド登山か、個人手配か・ツアーか・公募登山か）考えるのは楽しいことである。

今回、平均年齢 70 歳の山なかま 7 人がチームを編成し、会員の応援を得ながら協同して、手作りで計画し、個人手配し、ガイド無しで実行し、丁寧に報告できることを、敗退したにもかかわらず素直に歓んでいる。

【2】(逆に) 何故ガイド登山の方が良いのか？

今回は個人手配だったが、私はガイド手配があっても良かったのではないかと考えている。なぜそうなのかという理由だが、私も上記と同様に海外での登山では外国人のツアー客に押し込まれて何度となく窮屈な思いをさせられたことがある。しかしその一方で、ガイドが居たが故に救われたミステイクが何度もあり、功罪を差し引くとガイドが居ることの方がプラスのように思えるのである。

先ず、体力的な差についてだが、あんなデカイ体の欧米人と一緒のグループで歩かされたのではたまったものではない、それはもう傍から見ただけでもよく判る。したがって、その点は日本人だけのグループか個人のガイドに限定をする、と云う対応策をとるべきだと思う。当然、そうすると費用が高くつく訳だが、ガイドだけの費用が多めにかかっても日本からのツアーに較べれば個人で海外登山することをすれば格安にいける方法が幾らでもあるので、殆ど問題にならない。

それよりも、現地ガイドがつくことによるメリットの方がうんと大きいと言える。これは誰にでも分ることだろうけれど、ガイドは現地の地理や事情に通じていることで、何事に於いても問題なく対応できるし、それよりも、外来者にとって必要な未知の情報を豊富に持っているという点にある。これはその地に通じたガイドでなければ知りえない情報で、何度もそのような場で自分の先入観に間違いがあったことを気づかされたことがある。そしてまた、現地の埋もれた文化を知ることの出来た喜びを覚えている。

イタリアのピッツベルニナに登頂した時は、日数が無いということをお願いすると、普段は通らないルートを登って1日短縮してピークハントすることが出来た。しかしその帰りの下山の途中に岩場で足を滑らせて宙吊りになったのだが、ガイドのしっかりとした確保があって、ヘルメットに亀裂が入る程度で救われたことがある。

ニュージーランドでは現地ツアーに参加したところ、一緒のグループに日本からのツアー客の7～8人が日本人のガイドと一緒に参加していた。その結果は気の毒なほどに日本人グループが差別待遇を受けていたのが見られた。宿舎の良し悪しやコース取り、食事の順番にまで、気の毒なほどに差別待遇を受けていた。お手製のガイド同伴で現地の山に入っているのだが、費用の割には見返りの少ないことが分るようだった。

これまで12回の海外山行で9回の登頂を経験しているが、ガイド氏のサポートが無ければその成功率はゼロだったろうと思われる。

※※ 以上、ガイドレス、ガイド登山のそれぞれの得失について、双方の意見を掲載した。

いずれを採用するかは個々のパーティーの事情、行先等により選択すべきであることは言うまでもない。

【3】 目的の山の調査・情報収集について

今回は敗退を余儀なくされた。その主な理由は残雪状況が正確に把握できていなかったことによる。現地のHPなどに記載されている山行報告を鋭意収集し検討したが、残雪期の報告が少なかったこと、計画立案中は現地国立公園レンジャー事務所が閉鎖中で問い合わせができなかったこともあり、残雪情報については正確に把握できず、計画した登頂とトレッキングを敗退する原因となった。

本年は天候状況が特異な年であったかも知れないが、計画が10日間早すぎたのが誠に悔やまれる。

以下、多少煩瑣になるが、調査・情報収集について触れておきたい。ツアー登山やガイド登山では、これらの仕事はツアー（ガイド）会社がやるが、個人手配・ガイドレスでは我々が行うしかない。上述のようにこれらの情報の多寡や精度によって、現地での行程を変更 or 中断させざるを得なくなるので、このことは非常に重要である。

言葉の問題もあるので、現地への問い合わせなどを十分にしなかったり、またガイドブックの記述を注意して読まなかったり、また往々にして誤った解釈に気づかず（または気づいてもそのまましておくなど）、現地に行って初めて「こんな筈ではなかったが・・・」と支障をきたすことがあった。

①ルート情報・・・ガイドブックや現地のHPなどに掲載されている情報は、殆どが真夏のトップシーズンの記述である。今回のようにシーズン初めの場合には、これらの情報を割り引いて評価する必要がある。慎重に見極めれば、沢山ある情報の中でも、今回必要な情報が選択できる情報源に辿りつく努力をすれば、少ないながら我々が必要とした情報も得られたと思うが・・・。

特に、残雪の情報など、もう少し細かく情報を収集すべきであったと反省している。また、山中の直近の情報を一番沢山持っているのはレンジャーではなく、ガイド会社のガイドであり、そのようなガイド情報を得る方策も考えておく必要があったと思っている（その可否は別にしても）。

ご参考までに、グランド・ティートンの山岳情報等については以下のHPが参考になろう。

■グランド・ティートン国立公園ビジターセンター <http://www.nps.gov/grte/index.htm>

■ " ジェニーレイク・レンジャー <http://tetonclimbingcany.blogspot.jp/>

■現地山岳団体(Wyoming Whiskey) <http://www.wyomingwhiskey.org/>

■Exum Mountain Guides (ガイド会社) <http://www.exumguides.com/>

■Jackson Hole Mountain Guides (") <http://www.jhmg.com/>

②気温について・・・今回は6月下旬の初めまでは予想どおり夜間の気温が低かったが、下旬の中頃以降は急に気温が上昇した。気温の高低は、残雪の融雪状況、持参する衣類の種類にも大きな影響を与える。今回は夜間の気温、山中の気温が低いという予想を立てたので、衣類も重い冬山用の衣類を持参したが、結果的には不要な重量を持参した結果となった。

出発前から現地の週間予報などをチェックして気温を外挿で予想したのであるが、例えば日本で言えば、「異常天候早期警戒情報」に相当するような気象情報を探すなり、或いは関係する気象データを集めてもう少し詳細に予測するなりすれば、概略ではあるがある程度の傾向は予測出来たかもしれない。NOAAの長期予報ではこの夏は平年よりも暑いとの予報は出ていたが・・・。

海外の高山の気象情報（天気予報）は欧州アルプスなどの一部の地域を除き、一般には予報されていない。山岳気象会社などが特別に提供している場合もあるが、非常に高価であるので一般的ではない。天気図（主に高層天気図）や現況気象データから自分で予測することもできるが、このた

めには天気図やデータを入手するためのインターネット環境を持ち込むことが必要である。インターネットに接続するためには、高速無線回線が繋がる山麓は別にして、山中では衛星通信を利用するしかなく、衛星通信は非常に高価である上に、通信機器、バッテリーも非常に高価である。

従って、我々一般に残された天気予報の方法は、入山前の山麓で天気図などをインターネットで入手して自分で予測するか、或いは日本出発直前に直近の天気図や予想天気図などをインターネットで入手して1~2週間先くらいまでの天候を自分で予測するかしかないということになる。

ただし、標高が低い山なら、平地の天気予報（平地なら先進国では殆どの地域で予報されている）から推測することもできる。

なお、アメリカでの天気予報等気象データの入手は下記参照。

■米国海洋大気庁(NOAA) [日本の気象庁に相当] <http://www.noaa.gov/>

■ワイオミング大学大気科学部 <http://weather.uwyo.edu/http://weather.uwyo.edu/>

【4】航空便関係で留意すべき事項

今回は航空便に関して二つの失敗をやってしまった。一つは、機内預け荷物の無料上限個数を間違えたこと、二つ目は現地時刻(サマータイム)を間違えたことによってデンバー空港での乗継便(デンバー⇒ジャクソンホール行)に乗り遅れ、目的地ジャクソンホールへの到着が1日遅れてしまったことである。このことについては下記に詳細を記すが、全体的に航空便に関して留意すべき事項を以下に述べる。

(1) 「格安」だけが一番ではない!!

①格安航空券の販売は格安エージェントだけの独占ではない。若干高いかもしれないが、例えばJTBなどでも販売している。また、路線を持っている航空会社なら(提携航空会社の路線も含めて)、航空会社でも販売している。料金の差は僅かな場合が多いのではなかろうか。

価格とサービスの質との対比で選ぶことが重要。

以下最低価格の一例を示す。経路、乗継回数、到着時間等に違いがあるので、一概には比較できないが・・・。

●成田～ジャクソンホール往復(航空券+国内空港施設使用料+海外諸税+燃油サーチャージ)
某格安エージェント=113,000円、JTB=126,000円 UNITED AIRLINES 直=\$1,341.

②「格安」航空券が一番ではない!!

格安航空券は、便の変更が利かない場合が多い。便の変更が利くかどうかを必ず確認し、便の変更が予想される場合には、多少割高になっても変更が利く値段の航空券を選ぶ必要がある。

③このような航空券の種類と利用の制限などについて、ちゃんと説明してから予約申し込みを受け付けてくれるエージェントを選ぶことが非常に重要である。

「安かろう、悪かろう」のケースも多いので、エージェント選びには注意が必要である。

(2) 預け荷物の個数・重量の制限について、ちゃんと確認すること。

①エージェントによっては、誤った情報を呉れる場合がある。今回もエージェントに事前に2回確認した際も、「23kg×2ケまで無料」との回答であったが、これは間違いで1ケ以内であった。

今回はクライミング装備、テントなどの共同装備、食料などを日本から持参したので、1人当たり

2ケのバグゲージとなり、そのため、成田でチェックインする際に荷物1ケ分のオーバーチャージを請求された(約\$100)。また、路線によっては1ケの重量制限が23kgより少ない場合もあるので、これらについても十分に確認すること。

山行の場合には、特に装備の重量が多いので、無償機内預け荷物の上限値は装備計画を策定する際の重要なファクターとなる。

- ②e-チケットにはバゲジの許容個数が記載されているので、これを確認することも重要であるが(小さい字で書いてあるので読み飛ばす場合が多い)、e-チケットは出発の直前にならないと送付されない場合も多いので、事前に航空会社に直接確認しておくのが一番確実な方法であろう。

(3) 夏時間(サマータイム) 導入地域の現在時刻の確認について

今回のデンバー国際空港での乗継便への乗り遅れは、成田からデンバーへの航空便の機内案内システムの到着地の時刻表示(及びアナウンス)が夏時刻になっていなかったことが原因であった。このようなことは他の航空会社でも起こり得ることであるので、夏時刻採用地域に行く場合には到着地の時刻表示(及びアナウンス)が夏時刻になっているかどうかの確認が必要である。

また、空港に着いたら、空港の時計などで現在時刻を確認しておく必要があるが、例えば今回のデンバー国際空港では、時計だけのディスプレイは無く、航空便情報の表示板などの空き部分に時刻が表示されるシステムになっているので、航空便情報の表示が暇になる深夜か早朝にしか時刻が表示されないという不便さがある。

(4) チェックインに掛かる時間について

成田発の国際線では、自動チェックイン機を導入している航空会社が多い。チェックイン機の台数が限られていること、チェックイン機の表示画面システムが不十分であることなどから、チェックインに相当な時間が掛かる。従って、通常要求されている出発時刻の2時間前ではなく、更に余裕を持ってチェックインする必要がある。

【5】現地での移動手段について(レンタカー)

ツアー旅行と違い現地でのアクセスはバスやタクシーの利用では費用の面や利便性が悪いので当然レンタカー利用となる。海外でのレンタカー利用の留意点として以下が挙げられよう。

- ① 海外での運手には国際免許証とクレジットカードが必要。
- ② 日本で予約ができる(日本語で)
アメリカの大手レンタカー会社は日本に代理店があるので日本語で料金や条件を確認できる。会社により基本料金+保険+税金等がセットになったお得なプランがある。
- ③ 今回利用したレンタカー会社はエイビス(Avis)の円建てウルトラパックを契約。
特に慣れない海外での運転なので全ての保険がセットされていることが安心である。
- ④ 料金は代理店に日本円での支払なので解りやすく簡単である。
- ⑤ 車種は乗車人員だけでなく荷物の量(数)を考慮して選定する。
- ⑥ 現地での車種のグレードアップは割高になるので、⑤はよく日本で検討し決めておく。
- ⑦ 現地の地図を予め入手しておきルート等を確認、またグーグルマップのウエイブサイトで詳細な情報も検索すると良い。

- ⑧ 帰国後に現地（USA）より不本意な請求があった場合代理店に連絡し対応してもらう。
今回もこのようなことが発生したが、クレジット会社に連絡し支払時期を1ヶ月送らせてもらいその間、代理店に現地(USA)に確認してもらい迅速対応で解決できた。

運転上の注意事項としては、以下が挙げられる。

- * 分かりにくい標識とルート確認のため、予めナビゲーターを決めておくこと。
- * 右側通行は右折時、左折時に間違うので、ナビゲーターにレーンなど方向を確認してもらうこと。
- * スピード制限、標識などは、その都度ナビゲーターに読み上げて貰い、確認すること。
- * 追加ドライバーの登録は追加料金(かなりの額)が必要。登録者以外の運転は保険対象外となる。
- * 未舗装道路は保険対象外であるので、進入してはいけない。
- * ウィンカーとワイパーが日本車と違い、左右反対側に付いているので注意が必要。

【6】クレジットカードの必要性

カード社会のアメリカでは、支払をキャッシュでするかどうかに関係なく、身分証明書的な意味でクレジットカードが必要になる場合が多い。例えば、以下のような場合にはクレジットカードが必要であるから、1枚は持参しておく必要がある。支払をキャッシュでする場合でも、身分証明書的な意味で提出を求められる場合がある。

(1) 病院、(2) レンタカーを借りる時、(3) 空港チェックインカウンターでの航空券種別変更・グレードアップ・預け手荷物のオーバーチャージ支払など（チェックインカウンターではキャッシュでの支払いは原則不可）、(4) タクシー、ホテル、イベントなどの予約をする時（支払いはキャッシュでもカード番号を確認される）。

なお、アメリカではVISA、MASTER CARDが一般的。AMEXは高級な店などのみ。
また、JCBは使えない場合が多い。

【7】GPSマップソフトの購入は現地では間に合わない

知らない土地の山に入るといふことで、地図は持って行くがやはりGPSが欲しい、といふことで新しくガーミンのe-Trex30Jを買って求めた。直前になって買ったので、マップソフトの現地版の入手が間に合わない。日本の業者に問い合わせたものの日数がかかるという返事。アマゾンでも注文をしてみたが入荷までに2～3週間必要だとのことで、それでは現地で買えば簡単に手に入るだろうと判断して、またその方が安いのではないかと考えて、ソフトを購入せずにアメリカに渡る事とした。

アメリカに入って早速ジャクソンにあるスポーツショップに行き聞いてみたところ、別のアウトドア店を紹介された。そこで確認したがマップソフトは無いとの返事。ベースキャンプに戻って後、ビジターセンターを訪ねて聞いたがやはりそこでも無いとの返事だった。仕方なく、今回はマップソフト無しで動かすことと判断する。要するに、マップソフトは現地でもアマゾンのようなネット通販でしか手に入らないようだと思えることができた。

【8】食料等の調達について

- ① グランド・ティートンの場合には、現地でも食材は調達できるので、日本からの持ち込みを多くす

る必要はない。

- ②ただし、嗜好品、アルファ米、味噌汁、ふりかけなどは売っていないので持参すること。
- ③調味料は現地で買うとサイズが大きいので、日本から持参した方がよい。
- ④調理器具（容器、シートまないた、トング、水入れ、包丁、割り箸、菜箸、ペーパーなど）は百円ショップなどで買える物があれば、捨ててくる積りで日本から持参した方が格安。

【8】キャンプについて

- ①テントサイトは、出来るだけ水場、トイレに近いサイトを選ぶこと。今回は水場&トイレまで歩1～2分という非常に近い場所を選択したので、夜中にトイレにも行けてストレスもたまらず非常に快適であった。
- ②テントの脇にツェルトを張っておくと、荷物の整理・出し入れが楽になる。

以上